

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 15 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652011

研究課題名（和文） 日本におけるオペラ創作の資料的俯瞰と作曲技法・美学の史的展開の解明

（英文） Historical Survey of Japanese Operas and Aesthetical Investigation of their Compositional Technique

研究代表者

長木 誠司 (CHOKI SEIJI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50292842

研究成果の概要（和文）：研究が遅れ、資料的にも危うい立場に立っていた日本の創作オペラの歴史を、1世紀にわたって通観し、創作美学的な考察を加えながらデータベース化して、後続の研究の便宜を計り、次のステップへの準備を整えた。

Hundred years' history of composing Japanese opera, which had been only scarcely researched and the materials of which confront a crisis of consumption, was surveyed and several important works were aesthetically investigated for the first time.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,600,000 | 0 | 1,600,000 |
| 2010年度 | 1,300,000 | 0 | 1,300,000 |
| 2011年度 | 400,000 | 120,000 | 520,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,300,000 | 120,000 | 3,420,000 |

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：音楽学

キーワード：オペラ、創作オペラ、戦後音楽史

1. 研究開始当初の背景

日本の音楽研究において、日本人作曲家の手によって作曲されたオペラ（創作オペラと呼ぶ）に関する研究はまったく等閑視されており、基本的調査と分類、および創作方法についての作曲技法的解明、その依拠する美学についての基本的考察が必要と考えられた。また、オペラに関する資料は、上演されればそれきりということが多く、作曲者の手元に戻らなかったり、勝手にコピー譜や演奏譜が作られては流通されたりという具合になっており、集中的に管理されているということがなく、結果的に各作曲家や各地に分散して、さらにそれらが常に散逸の危険性に曝

されていた。それゆえ、早急にこれらの資料を包括的に調査し、それに基づいての基礎研究はなされ、同時にデータベース化が望まれるところであった。

それゆえこれは、挑戦的萌芽研究にふさわしい状況であり、適切な方法論を整えて取りかかる必要があると感じられた。

2. 研究の目的

約1世紀にわたる日本の創作オペラに関する資料研究に、初めて本格的に着手すると同時に、日本におけるオペラという文化のあり方を、歴史的・技法的・美学的に考察し、ゆくゆくは、東アジア全体における移入文化

としてのオペラの、より総合的な研究につなぐ礎を築こうとするものである。

具体的には、現存する作品すべてに関する綿密な資料調査とそのデータベース化、そして代表的な作品に関する基本的な作品分析が行われる。

3. 研究の方法

対象となる作曲家と作品の特定を、既存の資料及び雑誌記事等から丹念に拾い上げて行ったあと、該当するオペラ作品の資料を作曲家および上演機関に直接問い合わせ、現地に臨むことにより調査・追跡して収集する作業を行う。

並行して、集められた作品については、音楽、原作、台本、上演形態などの視点から分類し、さらに重要な作品に関しては、音楽の一般的な書法と声楽書法、ドラマツルギー、思想的背景等を念頭に置きながら詳細に分析・検討する作業を行う。

包括的なデータベース化を行い、爾後の研究や上演のための基礎資料として整える。研究は上演あってこそ可能であり、上演は研究あってこそ可能であるという、忘れられた音楽作品の原理に幾ばくかでも貢献することになる。

4. 研究成果

研究年度ごとに創作年代を区切って調査研究をした。第1年度には最初の半世紀における創作オペラの発祥の歴史と、それに関する作曲家たちの問題意識、実際のオペラ上演と課題をつぶさに追うことができた。同時に、すでに失われてしまった作品もかなりあることが実際に突き止められた。

第2年度はその続きとして、残りの半世紀に作曲された作品を中心に、第1年度と同様の包括的な資料調査と収集、そして個々の作品の分析を試みた。曲数ははるかに増大しているため、調査には手間取ったが、第3年度に食い込む形で予定通り完了し、第3年度はそれに加えて全体を俯瞰する作業を行った。

予定されていた年間ペースは以上のようにほぼ達成され、創作オペラに関するデータベースが完成されて、国内外両方のオペラ研究者、および国内のオペラ実践者に分かりやすい形になった。

データベース上では、これまで忘れられていたり、楽譜が散逸したと思われていた作品に関しても、再度リストアップされ、また一部は発見されて今後の研究調査、あるいは上演の可能性に結びつくような成果も上げられた。同定しやすいように、インチピットの設定も考えたが、これはデータ容量の点から諦めざるを得なかった。次の機会に試みたい。

本研究によって達成された1世紀にわたる創作オペラ作品の俯瞰を元手にして、日本

におけるオペラというジャンルの受容と展開・発展の歴史が明らかになった。同時に、次なる個別研究を準備できる基礎固めができた。

この間、雑誌論文や学会発表等で成果の航海は行ってきたが、単著『戦後の音楽』のオペラの章などを通して、一部分については単行本として成果発表が行われている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 25 件)

- ① 長木誠司 ディスク遊歩人(9) 収穫の月に
レコ-ド芸術 58(9), 84-88, 2009-09
- ② 長木誠司 ディスク遊歩人(8) 光あれ
レコ-ド芸術 58(8), 84-88, 2009-08
- ③ 長木誠司 ディスク遊歩人(7) マノンの肖像
レコ-ド芸術 58(7), 88-92, 2009-07
- ④ 長木誠司 ディスク遊歩人(6) 演出家とその影
レコ-ド芸術 58(6), 92-96, 2009-06
- ⑤ 長木誠司 ディスク遊歩人(5) イタリアのトリスタン
レコ-ド芸術 58(5), 92-96, 2009-05
- ⑥ 長木誠司 ディスク遊歩人(23) あなたから君へ
レコ-ド芸術 59(11), 62-66, 2010-11
- ⑦ 長木誠司 ディスク遊歩人(22) 博物館と歌劇場と
レコ-ド芸術 59(10), 64-68, 2010-10
- ⑧ 長木誠司 ディスク遊歩人(21) ソフィーの選択の戦略
レコ-ド芸術 59(9), 86-90, 2010-09
- ⑨ 長木誠司 ディスク遊歩人(20) 声のために
レコ-ド芸術 59(8), 64-68, 2010-08
- ⑩ 長木誠司 ディスク遊歩人(18) メトを支えるオペラ文化
レコ-ド芸術 59(6), 64-68, 2010-06

- ⑪ 長木誠司 ディスク遊歩人(17)弱者、
汝の名は本当に女?
レコード芸術 59(5), 86-90, 2010-05
- ⑫ 長木誠司 ディスク遊歩人(15)ポーギー
はヨーロッパに行った
レコード芸術 59(3), 68-72, 2010-03
- ⑬ 長木誠司 ディスク遊歩人(14)両大戦狭
間にさまよえるオペラ
レコード芸術 59(2), 68-72, 2010-02
- ⑭ 長木誠司 ディスク遊歩人(13)ロシアの
冬をオペラで越える
レコード芸術 59(1), 68-72, 2010-01
- ⑮ 長木誠司 ディスク遊歩人(25)ベリオの
オペラ/ポストオペラ
レコード芸術 60(1), 70-74, 2011-01
- ⑯ 長木誠司 ディスク遊歩人(26)チャーチ
ョーサンの変容(その1)
レコード芸術 60(2), 66-70, 2011-02
- ⑰ 長木誠司 ディスク遊歩人(27)チャーチ
ョーサンの変容(その2)
レコード芸術 60(3), 70-74, 2011-03
- ⑱ 長木誠司 ディスク遊歩人(28)オペラの
ネグロ・スピリチュアルズ
レコード芸術 60(4), 60-64, 2011-04
- ⑲ 長木誠司 ディスク遊歩人(29)男心に男
が惚れて
レコード芸術 60(5), 66-70, 2011-05
- ⑳ 長木誠司 ディスク遊歩人(30)時節柄の
時事オペラ--81年前のジャズ
レコード芸術 60(6), 68-72, 2011-06
- 21 長木誠司 ディスク遊歩人(31)ムスメさ
ん、よく聴けよ!
レコード芸術 60(7), 70-74, 2011-07
- 22 長木誠司 ディスク遊歩人(32)テスピの
ワゴン
レコード芸術 60(8), 63-67, 2011-08
- 23 長木誠司 ディスク遊歩人(33)オペラの
なかの聞こえない歌(1)

レコード芸術 60(9), 62-66, 2011-09

- 24 長木誠司 ディスク遊歩人(34)オペラの
なかの聞こえない歌(2)

レコード芸術 60(10), 70-74, 2011-10

- 25 長木誠司 「アドルノとオペラ 市民社
会的音楽ジャンルへの批判と通路」、海老沢
敏先生傘寿記念実行委員会編『新モーツァル
ティアーナ』(音楽之友社、2011)、pp.441-451.

[学会発表] (計4件)

- ① 2009年11月7日(土)

日本音楽学会関東支部特別例会

貴志康一生誕100周年記念シンポジウム「ベ
ルリンの日本人——1930年代、貴志康一とそ
の周辺」パネルディスカッション司会と発表
(東京大学教養学部駒場キャンパス18号館
ホール)

- ② 2009年11月18-22日

“Cultural Politics of the Japanese Government
during the Great East Asia War”, Chinese and
East Asian Music: The Future of the Past, 14th
CHIME Meeting, 18-22 November 2009 at
Musical Instruments Museum (MIM), Brussels

- ③ および ④ 2010年11月6日(土)・7
日(日)日本音楽学会第61回全国大会(愛
知芸術文化センター12階 アートスペー
ス)

6日 発表「指揮者・近衛秀麿の戦中期」

7日 シンポジウム「Music in Performance——
パフォーマンス・スタディーズに何が可能
か？」

[図書] (計2件)

- ① 長木誠司『戦後の音楽 芸術音楽のポリ
ティクスとポエティクス』(作品社、
2010)

- ② 長木誠司ほか『貴志康一と音楽の近代』
(青弓社、2011) 監修も

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長木誠司 (CHOKI SEIJI)

東京大学大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50292842

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：